

平成 27 年 5 月 13 日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス
 代表者名 代表取締役社長兼 CEO 此下 竜矢
 (コード 2388 東証 J A S D A Q 市場)
 問合せ先 開示担当 横山 幸弘
 (TEL 03 - 6225 - 2207)

平成 27 年 9 月期第 2 四半期累計期間及び通期
 連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 26 年 11 月 14 日に公表いたしました平成 27 年 9 月期 (平成 26 年 10 月 1 日～平成 27 年 9 月 30 日) の第 2 四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想につきまして下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 27 年 9 月期 第 2 四半期連結累計期間業績予想の修正 (平成 26 年 10 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	4,000 百万円	250 百万円	250 百万円	60 百万円	2.20 円
今回修正予想(B)	4,312 百万円	827 百万円	741 百万円	144 百万円	5.31 円
増減額(B-A)	312 百万円	577 百万円	491 百万円	84 百万円	
増減率 (%)	7.8%	230.8%	196.4%	140.0%	
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 26 年 9 月期第 2 四半期)	2,751 百万円	301 百万円	348 百万円	39 百万円	1.46 円

2. 平成 27 年 9 月期 通期連結業績予想の修正 (平成 26 年 10 月 1 日～平成 27 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	9,000 百万円	700 百万円	700 百万円	150 百万円	5.51 円
今回修正予想(B)	8,500 百万円	1,800 百万円	1,700 百万円	400 百万円	14.69 円

増減額(B-A)	△500 百万円	1,100 百万円	1,000 百万円	250 百万円	
増減率 (%)	△5.6%	157.1%	142.9%	166.7%	
(ご参考)前期実績 (平成 26 年 9 月期)	5,995 百万円	311 百万円	389 百万円	80 百万円	2.96 円

3. 修正の理由

平成 27 年 9 月期第 2 四半期連結累計期間の業績予想につきましては、今上半期において年間の予想利益を上回る結果となりました。売上高につきましては、主にカンボジア王国のファイナンス事業において、カンボジア王国全域での事業展開が進みオートバイファイナンス契約件数が大きく伸びたことに加え、農機具ファイナンスにおきましてもオートバイファイナンスに比類するほぼ大きな契約額の伸びを示したことに加え、前連結会計年度から連結いたしておりますタイ王国でファイナンス事業を行う Thanaban Co.,Ltd.の売上高も堅調に推移したことにより、前回予想上回り、売上高は 43 億 12 百万円（前回予想よりも 3 億 12 百万円増収）となる見込みです。

（連結子会社「Thanaban Co.,Ltd.」の詳細につきましては次の URL をご参照ください。

http://www.wedge-hd.com/cms_v2/assets/files/NEWS/2014/p20140618.pdf

営業利益、経常利益につきましては、昨年来ファイナンス事業におけるタイ王国国内の政情不安、及び世界的な景気低迷の影響により、当社の顧客層である工場労働者や農業従事者の収入が減少するといった事象がありましたので、貸倒引当金繰入額の増額を行ってまいりました。前連結会計年度の第 3 四半期からは、足元の政情不安も解消され貸倒引当金繰入額は徐々に減少に転じつつありましたが、これらの改善が飛躍的に進み、前回ご説明させていただきました ASEAN 事業展開に伴う各種投資的開拓費用※は依然として発生してはいるものの、これらをそれぞれ大きく上回る利益となり、営業利益は 8 億 27 百万円（前回予想数値よりも 5 億 77 百万円増益）、経常利益は 7 億 41 百万円（前回予想数値よりも 4 億 91 百万円増益）となる見込みです。

四半期純利益につきましては、上記のような営業利益、経常利益が大幅に増益となる理由があったことにより、1 億 44 百万円（前回予想数値よりも 84 百万円増益）となる見込みです。

平成 27 年 9 月期通期連結業績予想につきましては、上半期までの達成状況を鑑み、売上高は前回発表を 5 億円下回る 85 億円、営業利益は前回発表を 11 億円上回る 18 億円、経常利益は前回発表を 10 億円上回る 17 億円、当期純利益は前回発表を 2 億 50 百万円上回る 4 億円を予定しております。

2013 年から 2014 年におきましては、ファイナンス事業のタイ王国の政情不安などの逆風の中、大型買収、ASEAN 展開などの攻めの投資を実行し、同時にタイ王国国内での遅延債権の処理や審査の厳格化などの守りの施策を進めてまいりました。この結果 2014 年 9 月期においては利益が一時的に低調に推移しました。従来ご説明申し上げておりました通り、上記の施策の結果、攻めの投資的活動により業績が拡大し、守りの施策が利益改善をもたらしました。

当社グループは現在においてもファイナンス事業、コンテンツ事業ともに ASEAN 展開、新規分野進出などの投資的費用を投下し続けております。今後とも、短期的な視点に拘泥せず、中長期的に業績を成長させることを旨とし、一般的な困難な世情等すらも事業機会と捉え、成長につなげていく方針です。

※投資的開拓費用

当社グループでは ARFC Vision (Asean Regional Financial Company Vision) に基づき東南アジア全域ならびに多種の金融商品へ事業領域を拡大しております。この方針に基づき前期から当期において発生した投資的費用は以下のものがあります。

- ・カンボジア王国におけるオートバイリース営業拠点全国展開費用
- ・SIAM Kubota と提携して新規農機具リース事業展開
- ・ASEAN 地域における多国展開を目指す活動
- ・タイ王国においてオートバイリースを営む Thanaban Co., Ltd. の買収にかかる費用
- ・中古バイク購入者へのリース供与事業を新規展開する費用
- ・オートバイ担保金融 (Moto4Cash) 事業の展開費用

また日本国内においても、新規事業を連続的に立ち上げていることに係る費用、及び、日本国内の事業を海外展開する為の費用等の先行投資的費用が集中的に発生しております。

以 上